

2017年12月15日

日本イーライリリー株式会社
〒651-0086
神戸市中央区磯上通 7-1-5
www.lilly.co.jp

EL17-68

47 都道府県の 2 型糖尿病患者さんの残薬に関する調査

青森県は残薬量約 23 回分／月で全国ワースト 2 位

全国平均約 13 回分／月 ～1カ月あたりの手元に残っている残薬量～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は、全国 47 都道府県の経口糖尿病治療薬服薬中の 2 型糖尿病患者さん 2,942 名を対象に残薬に関する調査を実施しました。

今回の調査の結果、全国の 2 型糖尿病患者さんは経口糖尿病治療薬とそれ以外の薬を合わせた医師から指示されている薬の服薬回数^{*1}は 1 カ月あたり^{*2}平均約 169 回で、そのうち現在手元に残っている量は平均約 13 回分あることがわかりました。

処方されている経口治療薬すべて(糖尿病治療薬とそれ以外の薬)について、残薬があることを医療従事者に申告しているか聞いたところ、26.5%の人が残薬を申告していないと回答し、その理由は「手元に残しておきたい」や、「処方してもらうときに残っていることを『言い忘れる』、『言いづらい』」などが多いことが明らかになりました。

＜青森県の 2 型糖尿病患者さんについて＞
調査結果のうち、青森県の 2 型糖尿病患者さん(対象:33 名)の服薬状況について見ると、処方されているすべての経口治療薬のうち平均 22.9 回分が現在手元に残っており(全国平均:12.9 回分)、全国で 2 番目に残薬量が多い結果となりました。

また、青森県では、薬が残っている理由として「処方してもらうときに残っていることを『言い忘れる』、『言いづらい』」などが多く、残薬について 39.4%が「申告していない」と回答し、その申告状況は全国でワースト 3 位でした。さらに、薬をすべて服用するために重要と考えていることは、「服薬回数の少ない飲み薬への変更」(36.4%)や「薬の一包化」(27.3%)、「飲み薬の種類を減らす」(21.2%)という回答が多く、患者さんのライフスタイルに合わせた治療が求められていることが示唆されました。

処方されている薬のうち
手元に残っている量が多いランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	残薬の量 (回数)	全国 平均
1	千葉県(112)	25.9回分	12.9回分
2	青森県(33)	22.9回分	
3	沖縄県(44)	21.1回分	
4	栃木県(53)	17.6回分	
5	静岡県(112)	17.4回分	
⋮			
47	島根県(48)	3.6回分	

残薬を医療従事者に申告していないランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	残薬を申告 していない	全国 平均
1	和歌山県(35)	45.7%	26.5%
2	高知県(38)	44.7%	
3	青森県(33)	39.4%	
4	長崎県(32)	37.5%	
5	愛媛県(35)	37.1%	
⋮			
47	沖縄県(44)	11.4%	

【青森県の 2 型糖尿病患者さんに関する主な結果】

＜残薬状況とその理由＞

- ◆ 現在処方されているすべての経口治療薬(糖尿病治療薬とそれ以外の薬)で医師から指示されている 1 カ月あたりの平均服薬回数は 169.3 回(全国平均 169.2 回)
- ◆ 処方されているすべての経口治療薬のうち 22.9 回分が手元に残っており、全国平均 12.9 回分と比較して多く、**全国でワースト 2 位**であった
- ◆ 薬が手元に残っている理由は「手元に残しておきたい」(41.2%)、「処方してもらうときに、残っていることを言い忘れる」(35.3%)、「処方してもらうときに、残っていることを言いづらい」(11.8%)

＜残薬の申告状況＞

- ◆ 薬が残っていることを医療従事者に申告していない患者さんは 39.4%で、全国平均(26.5%)よりも高く、**残薬申告率は全国ワースト 3 位**

＜残薬の改善方法＞

- ◆ どうすれば飲み薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「服薬回数の少ない飲み薬へ変更」(36.4%)、次いで「薬の一包化」(27.3%)、「飲み薬の種類を減らす」(21.2%)との回答が多かった

※1 服薬回数について:

本調査での服薬の回数は、1日に複数回または1日に複数種類の服薬をしている場合、それらを合算した延べ回数として集計しています

※2 1カ月の日数について:

本調査での1カ月の日数は、28日換算です

【調査概要】

- 調査目的 : 47都道府県の2型糖尿病患者さんを対象に、経口糖尿病治療薬の残薬の有無に影響する因子を明らかにする
- 調査対象 : 20歳以上で医師から2型糖尿病の診断がなされており、かつ現在通院中で薬物療法を行っている患者さん(2,942名)※内訳は以下の通り
- | | | | | |
|----------|----------|----------|-----------|----------|
| 北海道(118) | 青森県(33) | 岩手県(52) | 宮城県(105) | 秋田県(33) |
| 山形県(41) | 福島県(52) | 茨城県(106) | 栃木県(54) | 群馬県(54) |
| 埼玉県(111) | 千葉県(112) | 東京都(126) | 神奈川県(111) | 新潟県(56) |
| 富山県(34) | 石川県(33) | 福井県(40) | 山梨県(31) | 長野県(53) |
| 岐阜県(51) | 静岡県(112) | 愛知県(114) | 三重県(55) | 滋賀県(33) |
| 京都府(104) | 大阪府(113) | 兵庫県(108) | 奈良県(57) | 和歌山県(35) |
| 鳥取県(34) | 島根県(48) | 岡山県(53) | 広島県(107) | 山口県(33) |
| 徳島県(38) | 香川県(34) | 愛媛県(35) | 高知県(38) | 福岡県(110) |
| 佐賀県(40) | 長崎県(32) | 熊本県(34) | 大分県(47) | 宮崎県(45) |
| 鹿児島県(33) | 沖縄県(44) | | | |
- ※()の中は有効回答数
- 調査地域 : 47都道府県
- 調査手法 : インターネット、郵送または訪問留置による調査(実査は株式会社メディリードに委託)
- 調査時期 : 2017年4月24日~5月16日
- 備考 : 全国の値はウェイトバックを実施

【主な調査結果】

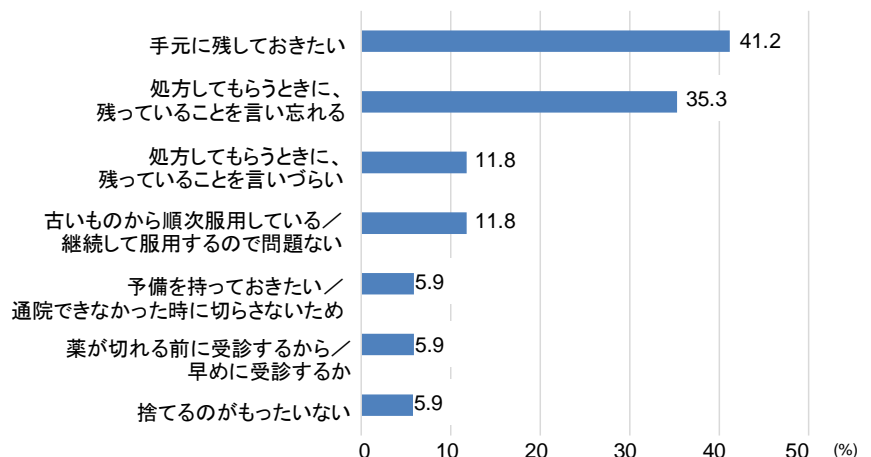
<残薬状況とその理由>

- ◆ 青森県の2型糖尿病患者さんが現在処方されているすべての経口治療薬(糖尿病治療薬とそれ以外の薬)で医師から指示されている1カ月あたりの平均服薬回数は、169.3回(全国平均169.2回)
- ◆ 青森県の2型糖尿病患者さんは、処方されているすべての経口治療薬のうち22.9回分が残っており、**全国でワースト2位**であった
- ◆ 現在、薬が手元残っている患者さんに理由を伺ったところ、青森県の2型糖尿病患者さん(対象:17名)に多かったのは、「手元に残しておきたい」(41.2%)、「処方してもらうときに、残っていることを言い忘れる」(35.3%)、「処方してもらうときに、残っていることを言いづらい」(11.8%)

処方された薬のうち 手元に残っている量が多いランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	残薬の量 (回数)	全国 平均
1	千葉県(112)	25.9回分	12.9回分
2	青森県(33)	22.9回分	
3	沖縄県(44)	21.1回分	
4	栃木県(53)	17.6回分	
5	静岡県(112)	17.4回分	
6	東京都(126)	17.2回分	
7	山梨県(31)	17.1回分	
8	和歌山県(35)	16.1回分	
9	神奈川県(111)	15.0回分	
10	群馬県(54)	14.7回分	
:			
47	島根県(48)	3.6回分	

Q.余った飲み薬を手元に残している/残ってしまっている理由を お知らせください。(n=17)



<残薬の申告状況>

- ◆ 薬が残っていることを医療従事者に申告していない青森県の2型糖尿病患者さんは39.4%で、全国平均(26.5%)よりも高く、**残薬申告率は全国ワースト3位**

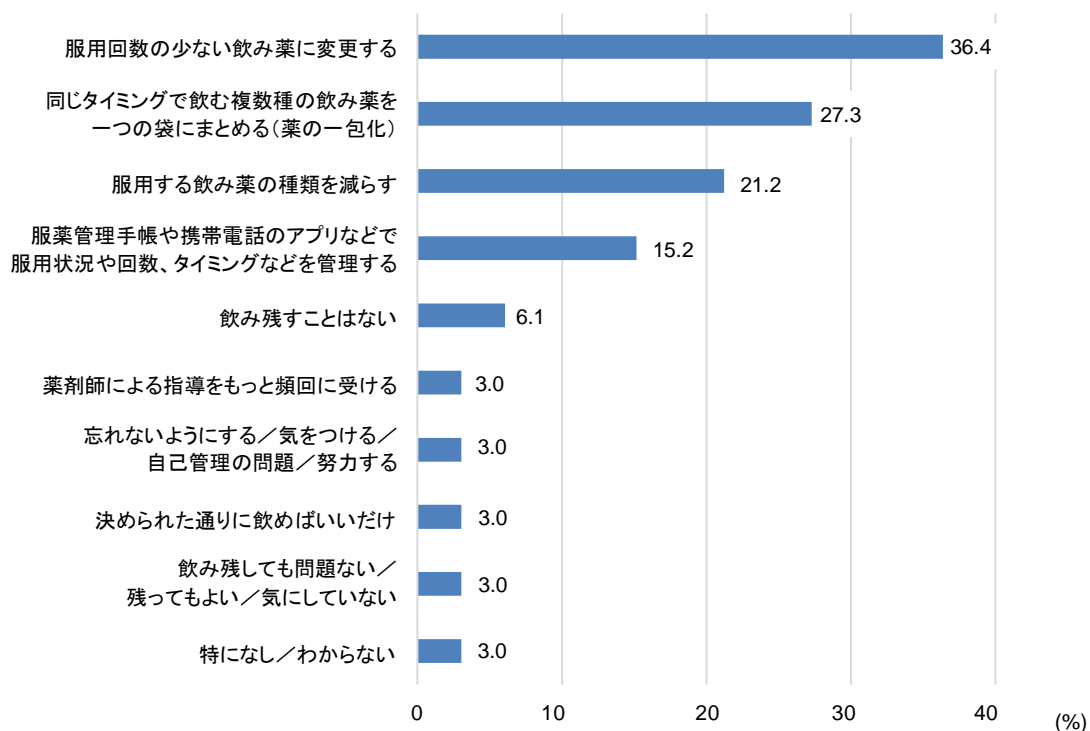
残薬を医療従事者に申告していないランキング

順位	都道府県 (サンプル数)	残薬を申告 していない	全国 平均
1	和歌山県(35)	45.7%	26.5%
2	高知県(38)	44.7%	
3	青森県(33)	39.4%	
4	長崎県(32)	37.5%	
5	愛媛県(35)	37.1%	
6	栃木県(54)	37.0%	
6	群馬県(54)	37.0%	
8	大分県(47)	36.2%	
9	鳥取県(34)	35.3%	
9	熊本県(34)	35.3%	
:			
47	沖縄県(44)	11.4%	

<残薬の改善方法>

- ◆ どうすれば経口治療薬をすべて服用できるようになるか聞いたところ、「**服薬回数の少ない飲み薬へ変更**」(36.4%)、次いで「**薬の一包化**」(27.3%)、「**飲み薬の種類を減らす**」(21.2%)との回答が多かった

Q.どうすれば残すことなく飲み薬をすべて服用できるようになると思いますか。(n=33)



イーライリリー・アンド・カンパニーの糖尿病事業について

イーライリリー・アンド・カンパニーは1923年に世界で初めてインスリン製剤を開発して以来、糖尿病ケアの分野において常に世界をリードしてきました。現在も、糖尿病をもつ人々やケアを行う人々の様々なニーズに応えることで、この伝統を築いています。研究開発や事業提携、拡大し続ける幅広い医薬品ポートフォリオ、そして、医薬品からサポートプログラムをはじめとする実質的なソリューションを提供し続けることを通じて、世界中の糖尿病をもつ人々の生活の改善に努めます。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lillydiabetes.com>

イーライリリー・アンド・カンパニーについて

イーライリリー社は、世界中の人々の生活をより良いものにするためにケアと創薬を結び付けるヘルスケアにおける世界的なリーダーです。イーライリリー社は、1世紀以上前に、真のニーズを満たす高品質の医薬品を創造することに全力を尽くした1人の男性によって設立され、今日でもすべての業務においてその使命に忠実であり続けています。世界中で、イーライリリー社の従業員は、それを必要とする人々の人生を変えるような医薬品を開発し届けるため、病気についての理解と管理を向上させるため、そして慈善活動とボランティア活動を通じて地域社会に利益を還元するために働いています。詳細はウェブサイトをご覧ください。 www.lilly.com および <http://newsroom.lilly.com/social-channels>

日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。

詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.lilly.co.jp>